

授業科目名・形態	文学の世界	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	相馬明文	開講期	1～2年 前期	単位数 2

【授業の主題】

文学作品は、私たちにとってどのような意味を持っているのか。人生の手本・処方箋だという考えやし好品に近いという意見の一方で、全く意味など認めない人たちもいる。この授業では何らかの意義や価値を認める位置から、文学作品とくに小説の魅力と価値について学び合っていこう。その一つの方法として、〈文学の表現〉〈文学の技術〉を注視しながら、主として小説表現の分析をしていく。まず芥川龍之介と太宰治の代表作から数編取り上げて、基本事項を確認する。その後、大館に縁の深い作家でもある石川達三をはじめ、郷土の作家と作品にも視野を広げていきたい。

なお、この授業での作業や思考は、私たちの日常生活での文章表現上の〈読む・書く〉活動の参考になるものと考えらる。

【到達目標】

- 1) 小説の〈読み〉の基本的技術と作業を理解する。
- 2) 郷土（大館市とその周辺および秋田県）の作家と作品について知見を広げる。
- 3) 文学作品の世界を、社会におけるヒューマンリレーションズの一環として解説する。

【授業計画・内容】

- 第1回 本講義の主題と目標についての概略の説明
- 第2回 文学作品・文学表現の魅力と価値
- 第3回 芥川龍之介の小説①（「羅生門」を中心に）
- 第4回 芥川龍之介の小説②（「蜜柑」を中心に）
- 第5回 芥川龍之介の小説③（2つの作品の共通点と相違点）
- 第6回 太宰治の小説①（「走れメロス」を中心に）
- 第7回 太宰治の小説②（「人間失格」を中心に）
- 第8回 太宰治の小説③（小説の「語り手」の意味）
- 第9回 石川達三の小説①（「蒼氓」を中心に）
- 第10回 石川達三の小説②（社会派の文学について）
- 第11回 “あきた”の文学と作家①
- 第12回 “あきた”の文学と作家②
- 第13回 詩・短歌・俳句から①
- 第14回 詩・短歌・俳句から②
- 第15回 総まとめ

【授業実施方法】

基本的には講義形式を採りながら、文章でのまとめや口頭発表なども取り入れる。

【授業準備】

「羅生門」「蜜柑」「走れメロス」「人間失格」を読んでおくこと。

【主な関連する科目】

「文章表現」

【教科書等】

太宰治『斜陽 人間失格 桜桃 走れメロス 外七編』（文春文庫）、芥川龍之介『地獄変』（集英社）

【参考文献】

講義の中で、随時、参照する文献を挙げていく。

【成績評価方法】

筆記試験 50%、課題レポート・提出物 30%、授業への取り組み・出席状況 20%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

文学作品そのものが多様であるために、その読み方もさまざまなアプローチがある。特に、中学高校時代の教室で読んだ小説「走れメロス」「羅生門」を、もう一度読んでみることを通して、各人の今までの知見の底辺が広がるだろう。他の学習者の読解にも触れて、自分自身の〈読み〉を高めていく積極的な姿勢を期待したい。

授業科目名・形態	哲学	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	五十嵐 靖彦	開講期	1年～2年前期	単位数 2

【授業の主題】 哲学で取り扱われるテーマは数多くありますが、本講義ではまず哲学の学問としての一般的語義や特徴を解説した後、善悪や徳、幸福、健康、福祉等、特に人間の生き方や倫理にかかわる諸問題について先人の思索の成果を参考にし、その要点を考察する。

【到達目標】

- 1) 世界や社会について、「なぜ？」と深く追求する哲学的態度を身につけること。
- 2) 人間は「単に生きる」のではなく、「善く生きるべき」という先人（ソクラテス）の知恵を学び取ること。
- 3) それを踏まえて自ら充実した意義深い人生を送るよう勤めること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 哲学とはどういう学問か
- 第 2 回 ギリシア哲学の遺産
- 第 3 回 哲学と倫理学
- 第 4 回 哲学・倫理学上のいくつかのキーワードについて（人格、行為、責任等）
- 第 5 回 哲学・倫理学上のいくつかのキーワードについて（徳、愛、自律等）
- 第 6 回 「幸福」の哲学について
- 第 7 回 「健康」の哲学について
- 第 8 回 「看護」の哲学について
- 第 9 回 「福祉」の哲学について
- 第 10 回 「介護」の哲学について
- 第 11 回 中間段階での理解確認ミニテスト及び解説
- 第 12 回 西洋文明の源流について
- 第 13 回 哲学史にみる人間の自己認識の歩み ①
- 第 14 回 哲学史にみる人間の自己認識の歩み ②
- 第 15 回 哲学史にみる人間の自己認識の歩み ③

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

次回に取り扱うテーマについての資料を事前に配布するので目を通して置くこと。

【教科書等】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価方法】

平常点（出席・ミニテスト 20%）と期末テスト（80%）の合算。

【学生へのメッセージ】

毎回の授業について配布されている資料にざっと目を通して置くこと。

授業科目名・形態	心理学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	石塚 章	開講期	1年前期	単位数 2

【授業の主題】

心理学とは様々なアプローチから人間を理解しようとする学問であり、発達や学習、記憶、知能等の広い分野を扱う学問です。それぞれの領域ごとの専門家が日々研究を重ねていますが、本講義では幅広く学習をすることで、心理学に関する基本的な知識の習得、他者理解、自己理解を深める機会となればよいと思います。

【到達目標】

- 1) 心理学の基本的な知識を理解し、説明できる
- 2) 心理学の知見をもとに、人間理解を深める

【授業計画・内容】

第 1 回	オリエンテーション、心理学の概要	
第 2 回	心理学の歴史	
第 3 回	学習と記憶①	
第 4 回	学習と記憶②	
第 5 回	パーソナリティ	
第 6 回	発達心理学	
第 7 回	認知と行動	
第 8 回	ストレスとリラクゼーション	
第 9 回	心理教育	
第 10 回	心理検査①	
第 11 回	心理検査②	
第 12 回	集団心理学	
第 13 回	コミュニティ心理学①	
第 14 回	コミュニティ心理学②	
第 15 回	まとめ	※講義の進み具合で内容が変更となることがあります

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行いますが、個人ワーク、グループワークを行うこともあります。

【授業準備】

特に予習は必用ありません。講義内でしっかりと学んでください。

【主な関連する科目】 「カウンセリング」、「臨床心理学」

【教科書等】 教科書は使用しません。

【参考文献】 講義のレジュメに記載します。

【成績評価方法】

レポート 70%、受講態度・出席率 30%とし、総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

講義に加えて個人ワークやグループワークを行い、主体的に学べるような講義としたいと思います。

授業科目名・形態	文章表現	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	越後美緒子	開講期	1 年前期	単位数 2

【授業の主題】

情報が氾濫する現代社会では、「読む」「聞く」「書く」「話す」などの言語能力を高めて、物事を正しく認識・判断し、またみずから正しい情報を発信することは誰にでも求められる。

特に医療・福祉・保健等に携わる専門家として、他の領域との連携を図りながら、その活動を充実・発展させるために必要な表現力を身につけるために、実践的な学習を進める。

【到達目標】

- 1 言葉に対する意識を高め、自身の文章表現力を診断して、今後の学習課題をつかむ。
- 2 その課題の達成方法を見出し、具体的な計画を立てる。
- 3 その計画を試行し、成果を検証してみる。

【授業計画・内容】

第 1 回	[授業計画・内容の概説]	表現とは何か 「医療・福祉」と言葉
第 2 回	[日本語の特性と現状]	和語、漢語、カタカナ語、略語
第 3 回	[表現の種類と特色①]	話し言葉（敬語を中心に①）
第 4 回	[表現の種類と特色②]	話し言葉（敬語を中心に②）
第 5 回	[表現の種類と特色③]	書き言葉（手紙を中心に）
第 6 回	[文章の基礎①]	語彙を増やす 語彙を選ぶ
第 7 回	[文章の基礎②]	文節 センテンス 文末表現
第 8 回	[文章の基礎③]	文体の要点（正確・簡潔・平明）
第 9 回	[資料の収集と活用]	新聞の読み方、資料の保存方法
第 10 回	[小論文の作成①]	レポートと論文 主題の選定
第 11 回	[小論文の作成②]	事実と意見 独自性と説得力
第 12 回	[文章の構成と展開①]	構成案の作成 「段落」の重要性
第 13 回	[文章の構成と展開②]	三段階構成法 重点先行式構成法
第 14 回	[小論文の作成③]	表記のルール 推敲
第 15 回	[表現学習の方法]	「メモ」「書き写しノート」「音読」

【授業実施方法】 講義と演習を組み合わせる。

【授業準備】 各回ごとに次回の予習課題を与え、それをもとに授業を進める。

【主な関連する科目】 「コミュニケーション論」「社会学」「文学」等。

【教科書等】 特定のものを使用せず、各回ごとに教材を配布する。

【参考文献】 国立国語研究所、日本新聞協会、日本看護協会出版会刊行の資料他。

【成績評価方法】 定期試験 70%、小論文 20%、演習課題 10%、として評価する。

【学生へのメッセージ】 古くから「文は人なり」と言われます。書くにしても話すにしても、文＝言葉には、その表現者の人間性がにじみでるものなのです。また、文＝言葉は人間を育てもします。人間性が一朝一夕に身につかないと同様に、文章表現にも楽なノウハウはありません。しかし、日ごろから「意識して」活字、映像、音声などに触れるように努めれば、おのずと文章の表現力はついてきます。

授業科目名・形態	法学（日本国憲法）	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	道端忠孝	開講期	1年	単位数	2単位

【授業の主題】

本講では、法学入門と日本国憲法について講義するが、日本国憲法に重点を置く。

法学入門では、法とは何か、同じ社会規範である道徳とはどこが違うか、法の適用、法源、法の目的、法の解釈などの法学についての基本を行なう。

日本国憲法では、私たちの人権はどのように保護されているか、人権の種類や内容を理解し、国民を主権者とし、国民みんなが人間として健康で文化的な最低限の生活ができるようにし、そのために三権分立制度や地方自治制度をおき、平和主義を貫いているが、その根底には、「すべて国民は、個人として尊重される。」(憲13条)という、「人間の尊厳」、「個人の尊重」があることを理解し、日本国憲法の大切さを再確認するために、講義を展開する。

【到達目標】

- 1)、法学とは何か、日本国憲法の基本とその仕組みを理解する。
- 2)、日本国憲法の根底にある「人間の尊厳」「個人の尊重」を理解する。
- 3)、特に、看護福祉の世界において、患者さんや社会的・経済的弱者の人権保護の大切さを理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 ガイダンス・法とは何か（法学1）
- 第2回 法と道徳の違い、法の目的、法の種類、法の体系（法学2）
- 第3回 法の適用、法の解釈、法の分類（法学3）
- 第4回 憲法とは、その基本原理（憲法1）
- 第5回 日本国憲法の由来（憲法2）
- 第6回 日本国憲法の基本原則（憲法3）
- 第7回 国民主権と参政権（憲法4）
- 第8回 人権①（憲法5）
- 第9回 人権②（憲法6）
- 第10回 人権③（憲法7）
- 第11回 国会（憲法8）
- 第12回 内閣（憲法9）
- 第13回 裁判所（憲法10）
- 第14回 地方自治（憲法11）
- 第15回 平和主義（憲法12）

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行なう。

【授業準備】

授業ではプリントを配布するが、よく読んで予習し、ノート整理し、新聞等では、人権侵害、憲法改正や選挙などの記事が載るので、まとめてみよう。

【主な関連する科目】

権利擁護と成年後見、民法。

【教科書等】

テキストは使用しない。プリントを配布して行なう。

【参考文献】

遠藤浩・久保田きぬ子編『法学入門—法学・日本国憲法』有斐閣新書、伊藤真『憲法入門』日本評論社など。

【成績評価方法】

小テスト（40%）、定期試験（60%）により評価。

【学生へのメッセージ】

日本国憲法は、私たちの人権を保障し、そのための三権分立制度や地方自治制度をおきますが、私達一人ひとりの『個人の尊重』『人間の尊厳』を根底においています。この講義を受講し、私たちの人権の大切さを再確認しましょう。

授業科目名・形態	社会学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川 尚	開講期	1～2年前期	単位数 2

【授業の主題】

社会全体の仕組みや変化の原理を追及しようとする社会学の視点から、人間にとっての基礎集団である家族と私たちが暮らしている地域社会を中心に現代社会の基底部分で生じている構造的な変化及び高度経済成長以後に注目された社会問題を解説し、社会理論による現代社会の捉え方を理解する。

【達成目標】

現在抱えている我が国の社会問題を考えることによって、社会理論の視点を養うことを目標とする。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会学とは
- 第2回 社会システムとは
- 第3回 法と社会システム
- 第4回 経済と社会システム
- 第5回 社会変動とは
- 第6回 人口からみた社会変動
- 第7回 生活の捉え方
- 第8回 家族
- 第9回 地域
- 第10回 社会的行為
- 第11回 社会的役割
- 第12回 社会集団と組織
- 第13回 社会的ジレンマ
- 第14回 社会関係資本と社会的連帯
- 第15回 社会問題の理解

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度等を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】 社会福祉概論Ⅰ、社会保障論Ⅰ、他

【教科書等】 新・社会福祉士養成講座『社会理論と社会システム』第3版（中央法規）

【参考文献】 特になし

【成績評価方法】 1)筆記試験 85% 2)出席点 15%

【学生へのメッセージ】

履修者は、毎週新聞記事を読んで感想を何人かに発表してもらいます。社会で生じている出来事について新聞等を読んで何故そのような事が起こるのか深く考えるようにして下さい。

授業科目名・形態	医療と福祉のマネジメント	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	石岡和志、山平良子、大館市職員	開講期	1～2年後期	単位数	2

【授業の主題】

少子高齢化や価値観の多様化による社会構造（家族構成、働き方など）の変化に対し、国や地公共団体は国民（市民）の福祉の維持向上のため様々な政策・施策を展開しています。

本授業では、大館市役所の職員が講師となり、福祉行政を中心に、市役所の役割・議会との関係なども含め、仕事の内容、直面している課題とその取り組みのほか、市の政策決定システムなど生の地方行政を学びながら、大学のあるこの地域への理解を促し、地域で活躍する人材を育成することを目的としています。

【到達目標】

福祉行政の実施体制やその実際を学び、医療福祉のマネジメントについて、医療・福祉の現場、地域などをそれぞれの側面から看護福祉の専門職として求められる基本的な視点を身につける。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション～医療と福祉職におけるマネジメントを考える（石岡）
- 第 2 回 市役所の役割と地域課題解決のための公共政策とは（大館市 企画調整課）
- 第 3 回 市町村議会の役割（大館市 議会事務局）
- 第 4 回 地方自治体の予算の仕組みと財政（大館市 財政課）
- 第 5 回 高齢者に対する支援（介護保険、高齢者福祉、在宅医療と介護連携）（大館市 長寿課・健康課）
- 第 6 回 子ども・子育て支援事業計画の策定目的と実施内容（大館市 子ども課）
- 第 7 回 障害福祉計画の策定目的と実施内容（大館市 福祉課）
- 第 8 回 生活保護行政と動向（大館市 福祉課）
- 第 9 回 地域保健対策の取り組み（大館市 健康課）
- 第 10 回 自治体の危機管理体制（大館市 危機管理課）
- 第 11 回 特別講義（ふるさと大館のまちづくりについて）（大館市長）
- 第 12 回 病院、医療組織とは（山平）
- 第 13 回 医療におけるキャリアアップと目標管理（山平）
- 第 14 回 臨床の視点からのマネジメント（山平）
- 第 15 回 医療と介護の地域連携について（石岡）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 関連する科目の講義内容で学んだ制度を再確認しておくこと。

【主な関連する科目】 社会保障論、地方自治と財政、地域福祉論

【教科書等】 特に指定はしない。適宜資料を配布する。

【参考文献】 必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価方法】 平常点 10%、レポート 60%、期末試験 30% で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

地方の福祉行財政の動向、福祉計画への取り組みに関心を持ちながら主体的に受講すること。また、大館市の政策等を理解するために、地元紙や大館市の広報を閲覧しておくこと。

授業科目名・形態	基礎数学	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	倉坪茂彦	開講期	1～2年後期	単位数	2

【授業の主題】

数学は、現代社会を生きる上で必要な教養の一つです。身近なことでいえば、近い将来、教育ローン・住宅ローン・自動車ローンなど銀行から融資を受けて生活設計を立てる必要も出てくるでしょう、あるいは消費税の計算（内税・外税）の計算も避けて通れません。また、公務員試験や就職試験には、一般教養の一部として数学の問題が出ることもあるでしょう。日頃から数学的なものの考え方に馴れ、使いこなせるようにしておきたいものです。

【到達目標】

最近の各種公務員試験の問題を教材にして、文章を読んで、数学的な表現（式、不等式）に書き表し、それを解く、といったことができるようにする。

【授業計画・内容】

- 第1回 ピタゴラスの定理について
- 第2回 円周率 π について（1）
- 第3回 円周率 π について（2）
- 第4回 文章題から連立方程式をたてる（1）
- 第5回 文章題から連立方程式をたてる（2）
- 第6回 文章題から連立方程式をたてる（3）
- 第7回 中間試験（前半）と数の表記（後半）
- 第8回 整数（約数・倍数・互除法など）の復習（1）
- 第9回 整数（約数・倍数・互除法など）の復習（2）
- 第10回 仕事と時間の問題（1）
- 第11回 仕事と時間の問題（2）
- 第12回 濃度の問題（1）
- 第13回 濃度の問題（2）
- 第14回 不等式が関係する文章題（1）
- 第15回 不等式が関係する文章題（2）
- 第16回 最終試験

【授業実施方法】

講義形式で行います。

【授業準備】

前回の授業内容を復習しておくこと。課題（レポート）を自力で解くこと。

【主な関連する科目】

【教科書等】

指定しません。

【参考文献】

「公務員試験 スピード解説 数的処理」、実務教育出版

【成績評価方法】

出席状況（20%）、レポート課題（10%）、中間試験（30%）および最終試験（40%）で総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

終了後、「おもしろかった」と思えるような講義になるといいのですが……。

授業科目名・形態	化学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	佐藤公彦	開講期	1年~2年 前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

化学は医学の基礎となっている最も重要な科目のひとつです。化学は、その名前のように物質の変化に関する学問で、通常は目に見えない元素、分子の動きから物事の変化を説明しようとします。宇宙、地球、自然は水素からウランまでの 92 種類の元素で出来ており、生物、人体、あなたの体は生元素と呼ばれる約 20 種類の少ない数の元素から成っています。元素の組み合わせで多くの化学物質が生成しますが、それらの化学反応が生体内で起こる場合は生化学反応と呼ばれます。授業では、化学の原理、化学物質の性質に関する基本的な事柄を解説しますが、複雑な数式もなく理解は簡単です。なお、医薬品と毒物に関する知識は看護と福祉医療に必須です。

【到達目標】

- 1) 科学、化学とは何か、を理解する。
- 2) 原子、分子の基本的な性質、特に、分子間相互作用力について理解を深める。
- 3) 化学物質の水溶性と疎水性を決定する分子間相互作用力を理解する。
- 4) 化学物質の医薬品特性、および毒物特性（毒性）を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 化学を始めるにあたって：医薬品の発見、発明、原子と物質、化学反応と周期律
- 第2回 共有結合化合物と有機分子：電子配置、共有結合化合物（強く結合した安定な化合物）
- 第3回 炭素、水素、酸素から成る有機化合物（元素数が少ないため有機化学は簡単です）
- 第4回 カルボニル化合物、C=O基、を持つ化合物（あれこれ反応します）
- 第5回 窒素を含む有機化合物（変わった化合物です）
- 第6回 ビタミン、ステロイド、ステロイドホルモン、酵素（医薬品に関連します）
- 第7回 イオン、電解質、金属、イオン結合（水溶液のお話です）
- 第8回 水（これはまあホントに特殊な溶媒です）
- 第9回 酸と塩基（多くの化学物質を酸、塩基として理解出来ます）
- 第10回 酸化と還元（エネルギーの産生機構の理解に必須です）
- 第11回 分析法（多くのものがありますがホンの触り、幾つかを解説します）
- 第12回 放射線と放射能（放射能は有害と思われて来ましたが実は生物にとって有益必須です。因みに太陽光は放射線です）
- 第13回 反応速度（化学の根幹、諸行無常、もの皆変わる。変化こそが真実とも言われます）
- 第14回 病気と関わる化学物質（医薬品のことです）
- 第15回 数と単位（これで化学物質の構造と特に反応の理解に役立ちます。科学とは、再現性のある現象を定量的に、つまり、数値化して、調べ、現象を支配する法則、規則を明らかにする方法論と、それによって得られた知識体系のことです）

【授業実施方法】講義形式で行います。教科書とプリントを中心にパワーポイントのスライドも用います。

【授業準備】少し予習をしておくといい。疑問点は何時でも質問して下さい。どんなに簡単、単純、初歩的なことでも歓迎します。

【教科書等】「医・薬・看護系のための化学、Allan Jones、原博、荒井貞夫訳、東京化学同人 2,900円

【参考文献】①系統看護学講座専門基礎「人体の構造と機能②生化学」、著：三輪一智ら、医学書院
②「ナースのための生化学・栄養学」、香川靖雄、野澤義則著、南山堂、3,500円

【成績評価方法】定期試験成績(85%)と受講状況(出席点15%)で評価します。

【主な関連する科目】「人体の構造と機能Ⅰ」、「栄養学」、「専門基礎演習」

【学生へのメッセージ】

化学は一見とっつきにくい感じを受けるかもしれませんが、しかし、地球、宇宙は全て化学物質から成っています。あなたの体も全て化学物質で構成されており、あなたの活動は生化学反応の集合です。化学の基本はうんと簡単です。化学の考え方と知識を身に付けると、3年後の国試の突破は勿論のこと、あなたの視野が広くなり、社会人、専門職人生が明るく豊かになります。

授業科目名・形態	統計学	講義	必修・選択の別	選択※
担当者氏名	力石 國 男	開講期	2～3年後期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題】

人々の健康を守る医療・保健分野ではそれに関わる多数のデータを統計的に分析することが少なくありません。科学的根拠に基づいた治療・処置を行うためには医療・保健情報を統計学に基づいて正しく解釈することが大切です。この授業ではそのときに必要となる統計学の基礎知識を1) 記述統計学、2) 相関解析、3) 確率と確率分布、4) 推計統計学に4区分して、できるだけわかりやすく講義します。

【到達目標】

統計学の面白さや有用性を認識して、報告書等に出てくる統計学用語が理解でき、卒業研究において統計学の知識を活用できることが到達目標です。保健師の資格取得を目指す人は保健師国家試験の出題範囲である「統計学の基礎」の知識をしっかりと身に着けましょう。

【授業計画・内容】

- 第1回 統計学のアウトライン（データの分類、データのグラフ表示、統計学のアウトライン）
- 第2回 分布の代表値と分散（1）（生データから平均値、中央値、モード値、四分位数、分散、標準偏差を求める）
- 第3回 度数分布表とヒストグラム（度数分布表、相対度数、累積度数、ヒストグラム、折れ線図）
- 第4回 分布の代表値と分散（2）（度数分布表から平均値、中央値、モード値、分散、標準偏差等を求める）
- 第5回 数量データにみられる相関関係（散布図、相関係数と回帰直線、相関係数、誤差と決定係数）
- 第6回 カテゴリー・データにみられる関連性（クロス集計表、オッズ比、ユールの関連係数、順位相関係数）
- 第7回 確率分布（1）（離散的な確率、順列と組み合わせ、二項分布、二項分布の期待値と分散）
- 第8回 確率分布（2）（連続的な確率分布、正規分布、標準正規分布とその区間積分）
- 第9回 確率分布（3）（平均値が従う確率分布、正規分布、t分布、分散が従う確率分布、 χ^2 分布、F分布）
- 第10回 推計統計学のアウトライン（母集団と標本、標本のサンプリング方法、推計統計学のアウトライン）
- 第11回 統計量の区間推定（1）（点推定と不偏量、平均値の区間推定、上側確率とパーセント点）
- 第12回 統計量の区間推定（2）（割合の区間推定、分散の区間推定、相関係数の区間推定）
- 第13回 仮説検定（1）—母集団と標本の比較—（検定の方法と手順、検定統計量、平均値および割合の差の検定）
- 第14回 仮説検定（2）—2標本の比較—（平均値の差の検定、等分散性の検定、割合の差の検定、相関の検定）
- 第15回 仮説検定（3）—クロス集計表の χ^2 検定—（適合度の検定、独立性の検定）
- 第16回 試験

【授業実施方法】

基本的に講義形式で行います。また多くの演習問題を解くことにより、理解を深めるように工夫します。

【授業準備】

統計学は演習問題を解くことにより理解が深まります。必ず前回授業の演習問題を復習しておいてください。

【主な関連する科目】

社会調査論、保健統計学、疫学、公衆衛生看護学概論、研究方法論、看護研究。

【教科書等】

毎回、講義内容を取りまとめたプリントを配布します。必要に応じて教科書を指定する予定です。

【参考文献】

統計学（金森雅夫・本田靖著、医学書院）、保健統計・疫学（福富和夫・橋本修二著、南山堂）。

【成績評価方法】

試験（約80%）、レポート（約10%）、出席状況（約10%）を総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

保健師の資格取得を目指す人は統計学の基礎をしっかりと学んでください。この授業を受講して、統計学は決して難しい学問ではなく、とても役に立つ学問であることを認識してください。

授業科目名・形態	生命科学	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	佐藤公彦	開講期	1年~2年 後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

生命科学は生物=生命現象を物質(分子)を基盤として理解しようと試みる学問体系、物質科学、です。自分、私、ヒトとは何者か? 何処より来たり、何処に行くものか? この授業では、ヒトを中心に、生命の起原、細胞、生体分子、エネルギー代謝、遺伝情報、生物進化、などのトピックスを幾つか紹介します。現代医学は、遺伝子組み換え、遺伝子治療、再生医療などが著しく発展しており、それらの理解は医療人にとって必須のものとなっています。生命科学はそのための基礎となっています。難しい数式を用いないため理解は簡単です。

【到達目標】

- 1) 生命、生物、人間、自分の体、について科学的な理解を深める。
- 2) 医学、医療が科学知識に基づいていることを理解する。
- 3) 生命科学、医学、医療の問題を自分で調べ理解するために必要な基礎知識を身に付ける。

【授業計画・内容】

- 第1回 生命のはじまり：生命の起原と生物の分類
- 第2回 生命のはじまり：細胞の基本的な構造と機能
- 第3回 生体分子I：アミノ酸とタンパク質
- 第4回 生体分子I：核酸
- 第5回 生体分子II：糖質
- 第6回 生体分子II：グリコシド結合の形成と二糖、多糖、複合糖質、脂質
- 第7回 タンパク質の構造と機能：酸素運搬タンパク質-ミオグロビンとヘモグロビン
- 第8回 タンパク質の構造と機能：酵素、力を生み出す(筋肉)タンパク質
- 第9回 細胞内のエネルギー代謝：エネルギー通貨ATPと酸化還元補酵素
- 第10回 細胞内のエネルギー代謝：糖の酸化的分解とATP生産
- 第11回 細胞内のエネルギー代謝：光合成、脂肪酸の β 酸化
- 第12回 生物の遺伝情報：複製、転写、翻訳
- 第13回 細胞の増殖
- 第14回 細胞の様々な機能
- 第15回 生物の進化と多様性

【授業実施方法】

講義形式で行います。教科書、プリント、を中心にパワーポのスライドも用います。

【授業準備】

予習はそれ程しなくとも構いません。複雑な機構も要点を理解すると簡単です。

【教科書等】

「はじめて学ぶ 生命科学の基礎」 畠山智允、小田達也 編著、化学同人株式会社、2,300円

【参考文献】

- ② 系統看護学講座専門基礎「人体の構造と機能②生化学」、著：三輪一智ら、医学書院
- ② 「ナースのための生化学・栄養学」、香川靖雄、野澤義則著、南山堂、3,500円

【成績評価方法】 定期試験成績(85%)と受講状況(出席点15%)で評価します。

【主な関連する科目】

「人体の構造と機能I」「栄養学」「専門基礎演習」

【学生へのメッセージ】

現代社会は科学と科学技術を基盤とする ICT 化社会となっています。生命科学は急速に進歩しており、近年注目されている再生医療とも密接に関連しています。良い医療人となるためには広い知識と物事を多面的に判断する intelligence が求められます。生命科学を学ぶことによって新しい見方、考え方が出来るようになることでしょう。

授業科目名・形態	基礎演習	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里 操・佐藤公彦・白男川 尚 脇山園恵・林 宏二・道端忠孝	開講期	1 年前期	単位数	1

【授業の主題】

大学で学ぶことの意義及び大学における学習を順調に進行させる効果的な学習方法（学習技術）について体系的に学びます。毎回授業と演習（簡単なテスト方式）をまじえて実施する。最終的に学術的レポートの作成意義およびレポート内容のプレゼンテーション重要性を理解して、課題についてレポートの作成とその内容についてのプレゼンテーションを行います。

【到達目標】

- 1) 学生としての自覚（自立した学習意欲）を促進する。
- 2) 学習技術を身に着け、レポートの作成とプレゼンテーションができるようになる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 基礎演習概要と大学生の学習技術
- 第 2 回 ノート・テイキング。リーディングの基本スキル
- 第 3 回 より深いリーディングのための要約
- 第 4 回 ワードプロによる要約文の作成
- 第 5 回 考えを文章で表現する
- 第 6 回 大学図書館の利用・活用（情報収集および整理）
- 第 7 回 インターネットによる情報収集・整理
- 第 8 回 レポート（アカデミック・ライティング）作成の基本スキル
- 第 9 回 文献のリーディング・資料分析。自己の主張を分かりやすく表現する
- 第 10 回 レポートの作成・ワードプロ化
- 第 11 回 推敲、提出
- 第 12 回 プレゼンテーションの基本スキル
- 第 13 回 パワーポイントに上るスライド作成
- 第 14 回 プレゼンテーションの練習
- 第 15 回 プレゼンテーション

【授業実施方法】 演習形式で行う。

【授業準備】 レポート作成課題等を忘れずに作成し、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

【教科書等】

学習技術研究会編「知へのステップ第 4 版—大学生からのスタディ・スキルズ」くろしお出版（2015）

【参考文献】

A.W.コーンハウザー（山口英一訳）1995『大学で勉強する方法』玉川大学出版部

【成績評価方法】

課題提出 50%、授業態度・出席状 50%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

学生生活が楽しくなるように、大学における学習方法（客観性を認識し自己の意見を組み立てる）を理解し大学生という新しい世界を切り開いて下さい。

授業科目名・形態	英語 RS	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	横内 裕一郎	開講期	1 年前期	単位数 2

【授業の主題】

主にリーディングとリスニングを中心に、医療系のテーマを通じて基礎的な語彙・表現・文法を学ぶ。

【到達目標】

専門科目において辞書を使用しながら最低限の英文文献を読むための基礎を身につける。英語で話しかけられたときに内容を理解することができるよう、内容語を正しく聞き取ることができるようになる。

【授業計画・内容】

- 第1回 Introduction・語彙力の測定
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 1 & Unit 2
- 第4回 Unit 2
- 第5回 Unit 3
- 第6回 Unit 3 & Unit 4
- 第7回 Unit 4
- 第8回 Review/ 中間試験
- 第9回 Unit 5
- 第10回 Unit 5 & 6
- 第11回 Unit 6
- 第12回 Unit 7
- 第13回 Unit 7 & 8
- 第14回 Unit 8
- 第15回 Review

【授業実施方法】

テキストに沿ってリスニング・リーディングの演習を行い、文法・表現の指導をする。予習してきた内容を授業内に学生同士で議論する時間も設ける。

【授業準備】

教科書の指定された範囲から、各自自作の単語帳を作成し授業開始前に提出する。その他、授業内で指示した課題に取り組むこと。

【教科書等】

樋口晶彦 & John Tremarco 『看護英語への総合的アプローチ First Aid! English for Nursing』金星堂

【参考文献】

特に設けない。必要な場合はハンドアウトを配布する。

【成績評価方法】

中間試験・期末試験それぞれ 30%、予習課題 30%、議論への参加状況 10%とし、合計点を

【学生へのメッセージ】

わからないことをわからないままにせず、些細なことでも相談に来て下さい。英語に対するモチベーションは各自違うと思いますが、毎日少しずつ学習していれば必ず成果はついてきます。継続的な学習が単位取得、そして英語運用能力の向上への王道です。

授業科目名・形態	英語 RS	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	横内 裕一郎	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

主にリーディングとリスニングを中心に、医療系のテーマを通じて基礎的な語彙・表現・文法を学ぶ。

【到達目標】

専門科目において辞書を使用しながら最低限の英文文献を読むための基礎を身につける。英語で話しかけられたときに内容を理解することができるよう、内容語を正しく聞き取ることができるようになる。

【授業計画・内容】

- 第1回 Introduction・前期の復習・実力テスト
- 第2回 Unit 9
- 第3回 Unit 9 & 10
- 第4回 Unit 10
- 第5回 Unit 11
- 第6回 Unit 11 & 12
- 第7回 Unit 12
- 第8回 Review/ 中間試験
- 第9回 Unit 13
- 第10回 Unit 13 & 14
- 第11回 Unit 14
- 第12回 Unit 15
- 第14回 Unit 15 / Review
- 第15回 Review

【授業実施方法】

テキストに沿ってリスニング・リーディングの演習を行い、文法・表現の指導をする。予習してきた内容を授業内に学生同士で議論する時間も設ける。

【授業準備】

教科書の指定された範囲から、各自自作の単語帳を作成し授業開始前に提出する。その他、授業内で指示した課題に取り組むこと。

【教科書等】

樋口晶彦 & John Tremarco 『看護英語への総合的アプローチ First Aid! English for Nursing』金星堂

【参考文献】

特に設けない。必要な場合はハンドアウトを配布する。

【成績評価方法】

中間試験・期末試験それぞれ 30%、予習課題 30%、議論への参加状況 10%とし、総合的に判断する。

【学生へのメッセージ】

わからないことをわからないままにせず、些細なことでも相談に来て下さい。英語に対するモチベーションは各自違うと思いますが、毎日少しずつ学習していれば必ず成果はついてきます。継続的な学習が単位取得、そして英語運用能力の向上への王道です。

授業科目名・形態	英語 CS	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	高杉純子	開講期	1 年前期	単位数 2

【授業の主題】

日常英会話の listening/speaking 活動を中心に行います。英語使用者のモデルとして、non-native speaker の英語に触れることもあります。自分に関することを自分の言葉で表す、を目指して練習していきます。

【到達目標】

- ・身近なトピックについての英会話を聞き取れるようになること
- ・自分自身や身の回りのことについて平易な英語表現で話せるようになること

【授業計画・内容】

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Unit 1: College Life (前半)
- 第 3 回 Unit 1: College Life (後半)
- 第 4 回 Unit 2: Mobile Phones (前半)
- 第 5 回 Unit 2: Mobile Phones (後半)
- 第 6 回 Unit 3: Movies (前半)
- 第 7 回 Unit 3: Movies (後半)
- 第 8 回 Unit 4: Dating (前半)
- 第 9 回 Unit 4: Dating (後半)
- 第 10 回 Unit 5: International Food (前半)
- 第 11 回 Unit 5: International Food (後半)
- 第 12 回 Unit 8: Music/Songs (前半)
- 第 13 回 Unit 8: Music/Songs (後半)
- 第 14 回 Speech / Review ①
- 第 15 回 Speech / Review ②

【授業実施方法】

pair/group work を取り入れつつ、テキストに沿って会話表現を練習していきます。

【授業準備】

配布プリントを使って、次回扱う unit の準備をしてきてください。

【教科書等】

Global Activator: Your English, My English, World Englishes! 金星堂

【参考文献】

英和辞典を持参してください。

【成績評価方法】

出席状況・参加態度 10%、speech 20%、課題(小テスト含む) 30%、期末試験(第 16 回) 40%、の総合評価

【学生へのメッセージ】

pair/group work では、一人一人が貢献するつもりで参加し、お互いによく助け合ってください。

授業科目名・形態	英語 CS	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	高杉純子	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

日常英会話の listening/speaking 活動を中心に行います。英語使用者のモデルとして、non-native speaker の英語に触れることもあります。自分に関することを自分の言葉で表す、を目指して練習していきます。

【到達目標】

- ・身近なトピックについての英会話を聞き取れるようになること
- ・自分自身や身の回りのことについて平易な英語表現で話せるようになること

【授業計画・内容】

- 第1回 Introduction
- 第2回 Unit 9: Sports (前半)
- 第3回 Unit 9: Sports (後半)
- 第4回 Unit 11: Traveling/Studying Overseas (前半)
- 第5回 Unit 11: Traveling/Studying Overseas (後半)
- 第6回 Unit 12: Festivals/Parties (前半)
- 第7回 Unit 12: Festivals/Parties (後半)
- 第8回 Unit 13: Part-time/Future Jobs (前半)
- 第9回 Unit 13: Part-time/Future Jobs (後半)
- 第10回 Unit 14: Experiences (前半)
- 第11回 Unit 14: Experiences (後半)
- 第12回 Unit 15: Cool Japan (前半)
- 第13回 Unit 15: Cool Japan (後半)
- 第14回 Speech / Review ①
- 第15回 Speech / Review ②

【授業実施方法】

pair/group work を取り入れつつ、テキストに沿って会話表現を練習していきます。

【授業準備】

配布プリントを使って、次回扱う unit の準備をしてきてください。

【教科書等】

Global Activator: Your English, My English, World Englishes! 金星堂

【参考文献】

英和辞典を持参してください。

【成績評価方法】

出席状況・参加態度 10%、speech 20%、課題(小テスト含む) 30%、期末試験(第16回) 40%、の総合評価

【学生へのメッセージ】

pair/group work では、一人一人が貢献するつもりで参加し、お互いによく助け合ってください。

授業科目名・形態	中国語	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	吉田 春樺	開講期	1~2年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

読む、聞く、話す、書くの四技能を利用して中国語を身につける。今はグローバル化時代、自分の母国語以外の第二外国語を覚えれば自分の勉強道具が増え、世界観が視野を広げ、沢山の人の気持ちを理解し、文化と知識の交流が出来ます。

【到達目標】

聞く、話す、読む、書くの力でコミュニケーションの向上と文通やメールのやり取りが出来ることを図ることを目標とします。1年間しっかり習得して中国語検定にチャレンジしてほしい。

【授業計画・内容】

- 第1回 ウォーミングアップ 発音
- 第2回 人称代名詞、動詞、疑問文 会話：你好！ 講読：自我紹介
- 第3回 復習と練習
- 第4回 指示代名詞（1）、疑問詞疑問文、副詞 会話：這是什麼？ 講読：大山的房間
- 第5回 復習、練習
- 第6回 動詞述語文、指示代名詞（2）、省略疑問 会話：你去哪？ 講読：便利店
- 第7回 復習、練習
- 第8回 形容詞述語文、量詞、数量を尋ねる疑問詞（数字） 会話：你要幾個？ 講読：全家照
- 第9回 復習、練習
- 第10回 時を表す語、時間量を表す語、反復疑問文、介詞（1） “在”、“從”（曜日、時刻）
会話：你 星期幾打工？ 講読：踢足球
- 第11回 復習、練習
- 第12回 「完了」を表す “了”、「所在」を表す “在”、介詞（2） “離”
会話：今天的課都完了嗎？ 講読：唱卡拉OK
- 第13回 復習、練習
- 第14回 連動文、助動詞（1） “想”、“要”、文末の助詞 “吧”、選択疑問の “還是”
会話：你吃飯了嗎？ 講読：去海邊兒
- 第15回 復習、練習
- 第16回 「経験」をあらわす “過”、介詞（3）、「存在」を表す “有” 位置を表す語
会話：你爬過富士山嗎？ 講読：喜歡北京
- 第17回 「動作の進行」を表す、主述語文、助動詞（2） “会”、目的語が動詞フレーズ、主述フレーズのとき
会話：你在幹 什麼呢？ 講読：學開車
- 第18回 復習、練習
- 第19回 様態補語、助動詞（3） “能”、“可以”、動詞の重ね型 会話：你有什麼愛好？ 講読：聯誼會
- 第20回 「比較」を表す “比”、副詞、「持続」を表す “着” 会話：這雙鞋怎麼樣？ 講読：動漫
- 第21回 復習、練習
- 第22回 名詞述語文、“変化”を表す “了”、“是～的”の文、二つの目的語をとる動詞
会話：生日快樂！ 講読：買衣服
- 第23回 復習、練習
- 第24回 結果補語、存現文、「近い未来」を表す “快～了”
会話：電影快開演了吧？ 講読：做寒假作業
- 第25回 復習、練習
- 第26回 方向補語、「使役」を表す “让” 会話：咱們快上去吧！ 講読：媽媽的郵件
- 第27回 可能補語、「受け身」をあらわす “被”、“把”の文 会話：歡迎你來北京！ 講読：餞行
- 第28回 復習、練習
- 第29回 まとめ練習或いは映画の鑑賞
- 第30回 まとめ練習

【授業実施方法】 基本的にはテキスト形式講義を行う。また、CD、DVDなども利用します。

【授業準備】 中国語に興味をもち、勉強する為にテレビ、ラジオの講座とドラマ、映画を利用してヒヤリングの力を強化します。

【主な関連する科目】

【教科書等】 さあ、中国語をまなぼう！会話、講読 白水社

【参考文献】 中日大辞典

【成績評価方法】 筆記試験 50% レポート 20% 出席 30%

【学生へのメッセージ】 中国語に馴染むこと、楽しく覚えて活発に発言して、よく話すことが大事です。

授業科目名・形態	手話	演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	三ヶ田 典明	開講期	1～2年前期	単位数 1

【授業の主題】

聴覚障害者は、聞こえないことを理解されにくく、誤解や疎外を受けやすい。しかし障害の特性を理解し、手話・指さし・筆談など適切な支援を行うことで、コミュニケーション障害の軽減は可能である。本講義では、聴覚障害者との対応の留意点を解説し、会話に必要な手話の基礎技術の習得を目指す。

【到達目標】

- 1) 聞こえない、話せないという障害の本質を理解すること。
- 2) 手話の基礎文法（疑問の表現、表情、空間の活用、時の経過、方向性など）を理解すること。
- 3) 指文字 50 音を完全にマスターすること。（必須）
- 4) 聴覚障害者を取り巻く社会の現状と、支援の方向性を理解すること。

【授業計画・内容】

第 1 回	講義…手話・聴覚障害の基礎知識	実技…伝えあってみましょう（身振り・あいさつ）
第 2 回		実技…自己紹介①・②（名前・家族・趣味、指文字）
第 3 回		実技…自己紹介③（仕事・家の場所）
第 4 回	実技試験…ビデオ収録（自己紹介①～③の表現が身についているか）	
第 5 回	難聴擬似体験（言われていることが分からない＝音声で情報が得られない体験をする）	
第 6 回	講義…ろう教育について	実技…受付①～②、科の手話、受付で使う手話
第 7 回		実技…問診①～⑨、症状・病名の手話、日時の手話
第 8 回		実技…問診⑩～⑫
第 9 回	講義…手話通訳とは	実技…診察①～⑬
第 10 回		実技…診察⑭～⑰、ゲスト交流の練習
第 11 回	実技試験…聴覚障害ゲストとの交流（手話積極的に会話が出来ているか）	
第 12 回	聴覚障害者活動と福祉制度	実技…検査①～⑧、検査の手話単語
第 13 回		実技…主な検査の流れ
第 14 回		実技…治療①～⑧、薬の種類・剤形・使い方の手話
第 15 回	手話サークルとは	実技…薬局①～⑦

【授業実施方法】

講義・解説……講義形式で行う。主に音声・パワーポイント表示で行う。

実技演習……グループワークによる演習・発表を行う。主に音声以外の方法を用いて指導する。
手話以外の伝達方法についても学習する。

【授業準備】

指文字 50 音は慣れれば 1 分もかからない。授業前にウォーミングアップとして最低 3 回行ってくこと。

【主な関連する科目】 障害者福祉論・コミュニケーション技術・コミュニケーション論

【教科書等】

テキスト：手話で必見！医療のすべて（一般社団法人 全日本ろうあ連盟）

資料：自作プリント・DVD 他

【参考文献】

適宜講義中に指示する

【成績評価方法】

実技試験 60%、演習への取り組み 20%、課題レポート 10%・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

聞こえる人の常識では、「会話は通じるのが当たり前。通じないのは、ちゃんと聞いていない」であるが、聴覚障害者の常識は、「会話は努力しないと通じないもの。通じないのが当たり前」である。

授業中に通じないのを恥と思わず、失敗は修正のチャンスとプラスに考え、習った手話をどんどん使ってみる積極性が欲しい。

授業科目名・形態	情報処理演習	演習	必修・選択の別	選択※
担当者氏名	力石 國男	開講期	1年前期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題】

この授業ではコンピュータを使って以下の内容について学習します。

- (1) コンピュータを管理するオペレーションシステム (OS) の役割と基本的な操作方法。
- (2) 早くて正確な情報入力に必要なキーボードのタッチタイピング。
- (3) 電子メールや情報検索の利用方法、ならびにコンピュータのセキュリティ対策。
- (4) レポート・論文の作成や発表に欠かせないワープロ、表計算、プレゼンソフトの使い方。

【到達目標】

授業の到達目標は、キーボードのタッチタイピングができること、電子メールの送受信ができること、ファイルの管理ならびにセキュリティ対策ができること、ワープロ・表計算・プレゼンソフトを自由自在に使えることです。

【授業計画・内容】

第1回	Windowsの基本操作とタイピング練習ソフト①	第16回	表計算ソフト Excel ②
第2回	Windowsの基本操作とタイピング練習ソフト②	第17回	表計算ソフト Excel ③
第3回	情報処理システムの基礎と情報検索入門①	第18回	表計算ソフト Excel ④
第4回	情報処理システムの基礎と情報検索入門②	第19回	表計算ソフト Excel ⑤
第5回	日本語ワープロ Word ①	第20回	表計算ソフト Excel ⑥
第6回	日本語ワープロ Word ②	第21回	表計算ソフト Excel ⑦
第7回	日本語ワープロ Word ③	第22回	表計算ソフト Excel ⑧
第8回	日本語ワープロ Word ④	第23回	表計算ソフト Excel ⑨
第9回	日本語ワープロ Word ⑤	第24回	表計算ソフト Excel ⑩
第10回	日本語ワープロ Word ⑥	第25回	プレゼンソフト Power Point ①
第11回	日本語ワープロ Word ⑦	第26回	プレゼンソフト Power Point ②
第12回	日本語ワープロ Word ⑧	第27回	プレゼンソフト Power Point ③
第13回	日本語ワープロ Word ⑨	第28回	プレゼンソフト Power Point ④
第14回	日本語ワープロ Word ⑩	第29回	プレゼンソフト Power Point ⑤
第15回	表計算ソフト Excel ①	第30回	プレゼンソフト Power Point ⑥

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行います。

【授業準備】

授業の空き時間などを利用して教科書の練習問題や授業中に出された練習問題を復習し、OA室のコンピュータの使い方に慣れてください。

【主な関連する科目】

多くの科目に関連しますが、とくに基礎演習、研究方法論、卒業研究など。

【教科書等】

FOM 出版編集部著：よくわかる Word2016&Excel2016&PowerPoint2016、FOM 出版。

【参考文献】

齊藤正生著：しっかり学ぶ Word、技術評論社、 稲葉久男著：しっかり学ぶ Excel、技術評論社。

【成績評価方法】

試験 (約 80%)、レポート (約 10%)、出席状況 (約 10%) を総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

この演習でレポート及び卒業論文の作成や発表において必要となるワープロ、表計算、プレゼンソフトの知識・技術を実身に身につけてください。社会人になるとコンピュータを利用した情報処理技術は自動車の運転と同じくらいに欠かすことのできない基礎技術です。

授業科目名・形態	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	岩間 薫 ・ 佐藤 恵子	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

ジェンダー概念に関連する諸事象を歴史的視点から学び、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念・意義等を国際的視点から捉えながら、セクシュアリティとジェンダー、医療・看護とセクシュアリティ、女性の健康問題・社会問題等について理解する。さらに、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの実現に向けて考察し、行動することができるための知識を身に付ける。

【到達目標】

1. 女性問題・男性問題とジェンダーについて理解する。
2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの意味・概念を理解し、問題点を見出すことができる。
3. 医療現場、看護におけるセクシュアリティに関わる問題について理解する。

【授業計画・内容】

第1回	女性・男性問題とジェンダー①	(佐藤 恵子)
第2回	女性・男性問題とジェンダー②	(佐藤 恵子)
第3回	女性・男性問題とジェンダー③	(佐藤 恵子)
第4回	女性・男性問題とジェンダー④	(佐藤 恵子)
第5回	女性・男性問題とジェンダー⑤	(佐藤 恵子)
第6回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは①	(岩間 薫)
第7回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは②	(岩間 薫)
第8回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは③	(岩間 薫)
第9回	人間の性とは	(岩間 薫)
第10回	医療・看護とセクシュアリティ	(岩間 薫)
第11回	リプロダクティブ・ヘルスを阻害する問題①	(岩間 薫)
第12回	リプロダクティブ・ヘルスを阻害する問題②	(岩間 薫)
第13回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ確立に向けて①	(岩間 薫)
第14回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ確立に向けて②	(岩間 薫)
第15回	まとめ	(岩間 薫)

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。グループワークによる資料作成・発表も行う。

【授業準備】

授業の中で取り上げられた問題については、次回の授業まで新聞などから現実に起きている問題として確認しておくこと。

【主な関連する科目】

次世代育成ケア論、母性看護学概論、母性看護学方法論、母性看護学実習、助産科目

【教科書等】 資料を配付

【参考文献】 適宜提示

【成績評価方法】

筆記試験 80%、授業への取り組み姿勢・グループワークの発表内容・出席状況 20%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 日頃から新聞などを見るように努め、社会で起きている問題に関心を持つようにしましょう。
- ・ 医療・看護とセクシュアリティ、男女の健康問題や社会問題について一緒に考えてみませんか？
*助産師に興味のある人、助産師になりたいと思っている人は、必ず履修してください。

授業科目名・形態	社会福祉概論Ⅰ 講義	必修・選択の別	選択※		
担当者氏名	中里操・林宏二	開講期	1年前期	単位数	2

※看護学科必修

【授業の主題】

看護・福祉の専門職として必要な現代社会における生活障害に対する社会福祉制度の意義や理念、福祉政策の社会的意義目的と福祉システムの関係について理解する。社会福祉の理念や制度は憲法第25条の理念を基礎に形成されてきたことを踏まえ、社会福祉の今日的課題や課題について考える。この科目は医療・介護・福祉・教育等生活者が抱える課題を認識するための方法をと、社会福祉の共通の専門基礎知識と技術について学ぶ。この学びを通して福祉人として児童・子育て支援や高齢者・障害者の生活支援、介護・看護・教育場面などの様々な援助場面における課題解決に向けた援助者としての基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. 社会福祉を正しく理解するために、社会福祉学固有の研究・認識方法を理解する。
2. 福祉関連科目の基礎であることを踏まえ、社会福祉制度・政策の内在的意義や目的を理解する。
3. 社会福祉制度の理念や目的、具体的なサービスの供給と利用のシステムについて理解する。
4. 福祉政策の意義や目的を理解し、福祉政策の策定過程とその結果について分析評価できるようになる。

【授業計画・内容】

- 第1回 社会福祉学を学ぶ①（社会福祉問題と社会福祉学）（中里）
- 第2回 社会福祉学を学ぶ②（社会福祉問題と認識方法）（中里）
- 第3回 社会変動と現代社会（中里）
- 第4回 社会問題と社会福祉政策（中里）
- 第5回 社会福祉制度の発達過程①（イギリス・アメリカの福祉発達史）（中里）
- 第6回 社会福祉制度の発達過程②（中里）
- 第7回 社会福祉の理念・原理と哲学①（中里）
- 第8回 社会福祉の理念・原理と哲学②（中里）
- 第9回 社会保障・社会福祉の制度と法律・（中里）政策①（社会福祉・福祉事業と法律）（林）
- 第10回 社会保障・社会福祉の制度と法律・政策②（社会福祉の制度・政策の概念）（林）
- 第11回 社会保障・社会福祉の制度と法律・政策③（社会福祉関連制度）（林）
- 第12回 社会保障・社会福祉の制度と法律・政策④（政策と政治）（林）
- 第13回 社会福祉の課題；必要と資源「ニーズ」①（社会福祉とニーズ）（林）
- 第14回 社会福祉の課題；必要と資源「ニーズ」②（社会福祉と資源）（林）
- 第15回 授業のまとめ（総括）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う

【授業準備】

前回講義内容を復讐する講義予定活動を読み専門用語概念などについて調べておく。疑問点を整備しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。社会福祉関連のニュースに関心を寄せ、目を通し自分なりの理解と説明ができる状態で主体的準備をする。

【主な関連する科目】 社会学、公的扶助論、社会保障論、福祉行財政論

【教科書等】 新・社会福祉士養成講座『現代社会と福祉』第4版（中央法規）

【参考文献】 児島明亜紀子編「現代社会と福祉」（東山書房）

【成績評価方法】 出席状況・レポート30%、期試験成績70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

社会福祉に関する基盤となる科目です。自分の生活に重ね合わせながら、地域社会の中で起きている福祉問題に関心を寄せてください。事象の奥にある見えない要因を探ってください。

講義は板書を中心に行うので、しっかりノートをとることが大事です。しっかり講義を聴きノートをとることによって教科書の行間のメッセージまで理解できる力をつけてもらいたいです。

授業科目名・形態	コミュニケーション論	講義	必修・選択の別	選択※
担当者氏名	黒澤繭子 石岡和志	開講期	1年前期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題】

コミュニケーションは、「人との関わり」において大変重要である。医療・保健・福祉専門者にとって、コミュニケーションは、対象者はもちろん、家族や他職種との連携・協働のために必須である。コミュニケーション論において、対人関係の形成に必要とされる基礎的知識と方法を学ぶ。

【到達目標】

1. コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解できる
2. コミュニケーションに関する基本的な方法を理解できる

【授業計画・内容】

- 第 1 回 コミュニケーションとは (石岡)
- 第 2 回 自己覚知と気づき (他人からみた自分) (石岡)
- 第 3 回 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション (石岡)
- 第 4 回 コミュニケーション・テクニック(1) (石岡)
- 第 5 回 コミュニケーション・テクニック(2) (石岡)
- 第 6 回 コミュニケーション・テクニック(3) (石岡)
- 第 7 回 コミュニケーションにおける連携・協力 (石岡)
- 第 8 回 アサーティブなコミュニケーション (石岡)
- 第 9 回 個人と集団 ～人が持っている「枠組み」～ (黒澤)
- 第10回 集団のまとわり ～自己概念と人の成長～ (黒澤)
- 第11回 人間の心の理解 ～思い込み～ (黒澤)
- 第12回 演習 (黒澤)
- 第13回 交流分析とは (黒澤)
- 第14回 感情表出のかたち (黒澤)
- 第15回 葛藤とのつきあい方 ～コンセンサス法の体験～ (黒澤)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業で配布する資料を復習し、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

人間関係論、コミュニケーション技術、看護コミュニケーション、カウンセリング

【教科書等】

適宜、資料配布

【参考文献】

- 中村裕子・野村豊子他：新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術、中央法規、2013
- 諏訪茂樹：コミュニケーション・トレーニング 人と組織を育てる、経団連出版、2012
- 星野欣生：人間関係づくりトレーニング、金子書房、2002

【成績評価方法】

定期試験 80%、課題提出 10%、平常点 10% で評価を行い、60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

コミュニケーション論は、人間関係論と共に医療・保健・福祉専門職者にとって大切な学問です。私たちが、これから対象とする方は、地域住民・対象者とその家族・高齢者・障害者など、多様なそして複雑な条件が重なり合っているうえに、個別性を重要視しなければならない人々です。学生のみなさんは自身が「どんな人」であるか見つめる機会でもあります。そして授業の内容を通して、対人関係に応用する知識を身につけ活用できるようになり、専門職者として活動する力を得て欲しいと思います。

授業科目名・形態	カウンセリング	講義・演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	石塚 章	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

カウンセリングとは技法、関係性、構造等様々なものによって構成されています。構造や関係性について学びながら、繰り返し、質問の仕方、感情の反映等様々な技法を学び、将来の実践の中で少しでも役に立てられるようになることが目的です。知識と技術を身に着け、そこに様々な経験を重ねてほしいと思います。

【到達目標】

- 1) カウンセリングの構造・技法等の知識を身に着ける
- 2) 聴くことの大切さを学び、実践できるようになる

【授業計画・内容】

第 1 回	心理療法とカウンセリング	
第 2 回	カウンセリングの構造	
第 3 回	カウンセリングの技法①	
第 4 回	カウンセリングの技法②	
第 5 回	事例から学ぶカウンセリング①	
第 6 回	事例から学ぶカウンセリング②	
第 7 回	カウンセリングの技法③	
第 8 回	カウンセリングの技法④	
第 9 回	カウンセリング演習①	
第 10 回	カウンセリング演習②	
第 11 回	カウンセリング演習③	
第 12 回	カウンセリングにおける倫理	
第 13 回	カウンセリング演習④	
第 14 回	カウンセリング演習⑤	
第 15 回	まとめ	※講義の進み具合で内容が変更となることがあります

【授業実施方法】

個人ワーク、ペアワーク、小人数でのワーク等、演習も多くあります。

【授業準備】

特に予習は必用ありませんが、演習後の振り返りを大切にしてください。

【主な関連する科目】 「心理学」、「臨床心理学」

【教科書等】 教科書は使用しません。

【参考文献】 講義のレジュメに記載します。

【成績評価方法】

レポート 30%、受講態度・出席率 70%とし、総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

しっかりと知識と技術を身につけ、少しでも将来の仕事の役に立てればと思います。積極的な演習への参加を期待します。

授業科目名・形態	公衆衛生学	講義	必修・選択の別	選択※
担当者氏名	小杉 真吾・小笠原 健	開講期	2年前期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題】

公衆衛生学の立場から、生活者の健康づくりと健康を守るための社会のシステムについて学習する。健康な生活をおくるために何が必要か、どのような努力がなされているか、制度、法について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 公衆衛生の定義とその理念対象について理解すること
- 2) 健康とは何か、社会において何を達成しようとするか、その体制を理解し、概説できること
- 3) 地域において医療・保健活動に従事する者として公衆衛生上担うべき役割を考察概説できること

【授業計画・内容】

- 第1回 公衆衛生の概念、健康とは何か (小杉)
- 第2回 健康の要因と指標 (小杉)
- 第3回 感染症と対策予防 (小杉)
- 第4回 食品保健と栄養 (小杉)
- 第5回 我々の生活と環境、環境保全 (小杉)
- 第6回 医療・介護の保障制度、地域保健活動 (小杉)
- 第7回 母子保健、学校保健 (小杉)
- 第8回 生活習慣病対策 (小杉)
- 第9回 難病対策、健康教育とヘルスプロモーション (小杉)
- 第10回 精神保健福祉 (小杉)
- 第11回 産業保健 (小杉)
- 第12回 これからの公衆衛生 (小杉)
- 第13回 タバコとアルコール (小笠原)
- 第14回 薬害・薬物乱用 (小笠原)
- 第15回 生活習慣病・難病 (小笠原)

【授業実施方法】

講義を主体として行う。

【授業準備】

事前の特別な準備は求めません。講義でどのように説明したか、どんな理屈で説明したか、思い出しながらテキストを読み返して、テキストの文章の意味をよく理解して復習してください。講義で特に取り上げた事柄や事例については、参考書や報道記事、ネット資料で確認してください。

【主な関連する科目】 保健・医療と法律、保健師課程科目

【教科書等】 「わかりやすい公衆衛生学 第4版」、清水忠彦・佐藤拓代、ヌーヴェルヒロカワ
「公衆衛生がみえる 2018—2019」、監修 石川雅俊他

【参考文献】 適宜、紹介する

【成績評価方法】

筆記試験 90%、出席状況・授業態度 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

公衆衛生は医療関係者にとっては、土台となるべき基礎知識の宝庫であります。日常生活で周りに起きていること、新聞記事等報道で取り上げられること、いろいろなことについて、関連性がないか、どういうことなのか、考えて理解を深めるようにしてください。

授業科目名・形態	環境と人間生活	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	力石 國 男	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

19世紀半ばの産業革命以降、世界人口の増加と人間活動の拡大によって地球環境は大きく変貌してきました。それにより私たちの生活は様々な危険に曝されるようになりました。この授業では人間活動に起因する環境問題や、それが私たちの健康に与える影響、代表的な自然災害とその対策などについて広く学びます。

【到達目標】

地球環境問題の実態や発生原因について理解を深め、私たちの日常生活との関わりや健康に与える影響について関心を持つようになることです。また、忘れたところにやってくる自然災害に対する理解を深めて、災害に遭わないための、あるいは災害を軽減するための知識を身につけることです。

【授業計画・内容】

- 第1回 ガイダンスー曲り角の時代を生きる-(人口の増加、日本の人口構成、資源の枯渇、地球環境の変貌)
- 第2回 太陽光線と健康 (太陽の恵み、太陽光線の性質、紫外線と健康)
- 第3回 オゾン層の破壊と紫外線 (オゾンの性質、オゾン層の破壊、紫外線の増加、健康への影響)
- 第4回 放射線と健康 (放射線の性質、放射線被曝による健康被害、原子力発電所の事故)
- 第5回 大気汚染と健康 (汚染物質の発生源、高濃度汚染への気象の影響、公害の事例、PM2.5)
- 第6回 水と健康 (水の循環と水資源、上水・下水の浄化、水質汚染による公害、地下水汚染)
- 第7回 合成化学物質による環境汚染 (内分泌かく乱物質による次世代の健康への影響)
- 第8回 酸性雨 (酸性雨とは何か、森が枯れる、川湖の魚が死ぬ、構造物が溶ける、国境を越える酸性雨)
- 第9回 雪氷圏の衰退と大気汚染 (人間活動と大気汚染、雪氷圏の汚れと衰退、気候変動への影響)
- 第10回 暑さと健康 (日本の夏の気候の特色、都市の温暖化、湿度と不快指数、暑さと感染症、熱中症)
- 第11回 寒さと健康 (日本の冬の気候の特色、寒さと感染症、主な疾患の季節指数、体感温度、低体温症)
- 第12回 住環境と健康 (適度な温度湿度、ヒートショック、不慮の事故、シックハウス、バリアフリー)
- 第13回 自然災害と人間生活1 (地震の発生メカニズム、地震災害、東日本大震災、阪神淡路大地震)
- 第14回 自然災害と人間生活2 (津波の発生メカニズム、津波の伝播・屈折・増幅、津波災害)
- 第15回 自然災害と人間生活3 (台風の発生メカニズム、台風による豪雨災害・強風災害・地盤災害)
- 第16回 試験

【授業実施方法】

私たちが直面している地球環境問題、それが健康に与える影響、各種の自然災害について最新の研究成果をプリントにして配布し、プレゼンソフトを活用してわかりやすく講義します。

【授業準備】

特段の準備は必要ありませんが、日ごろテレビ・新聞等で報道される環境問題・健康問題・自然災害に関心を抱き、自分の将来との関わりについて考えるようにしてください。

【主な関連する科目】 公衆衛生看護学概論。

【教科書等】 教科書は使用しません。毎回、講義の概要と各種資料をプリントにして配布します。

【参考文献】 必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価方法】 試験 (約 80%)、レポート (約 10%)、出席状況 (約 10%) を総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

地球環境問題が私たちの健康に与える影響や自然災害が発生するメカニズムを学んで、私たちの日々の生活と健康を守る智慧を身につけましょう。

授業科目名・形態	エイジング論	講義	必修・選択の別	選択※
担当者氏名	檜原登志子・庄司光子	開講期	1年後期	単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題】

発達の見点から老化を理解する。老化に伴う身体的機能や心理的機能の変化についての基礎的な知識を習得する。また、サクセスフルエイジングの他に、老化に伴う心と身体の変化と日常生活への影響についても理解する。これらには、人間の成長と発達、老年期の定義、老年期の発達課題、老化に伴う心身の変化の特徴、老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、高齢者の心理、老化に伴う心身の変化と日常生活への対応（援助）、高齢者に見られる精神障害とそれに対する対応（援助）などが含まれる。

【到達目標】

1. 高齢化、高齢者について身体的、心理的、社会的エイジングのプロセス（過程）を正しく理解できる。
2. 超高齢化社会のライフスタイル、家族形態、老いの意味の変化を理解できる。
3. エイジングによる日常生活への影響を理解し、リスクマネジメントを理解できる。
4. 高齢者のイメージを正しくし、正確な高齢者像を理解できる。

【授業計画・内容】

第1回	発達とは	(檜原)	ペーパー演習
第2回	人間の発達段階と発達課題	(檜原)	
第3回	発達と個人差	(檜原)	
第4回	老化とは	(檜原)	
第5回	老年期の発達課題の留意点	(庄司)	
第6回	老化が及ぼす心理的影響	(庄司)	
第7回	老いの価値・受容	(庄司)	
第8回	高齢者の心の問題と精神障害	(庄司)	
第9回	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響	(檜原)	体験演習
第10回	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響	(庄司)	
第11回	高齢者の症状・疾患の特徴	(庄司)	
第12回	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	(檜原)	体験演習
第13回	高齢者に多い病気とその留意点	(檜原)	
第14回	高齢者に多い病気とその留意点	(檜原)	
第15回	保健医療職との連携：事例で学ぶ老化の理解	(庄司)	ペーパー演習

【授業実施方法】

基本は講義形式。必要に応じ（高齢者の立場に立って生活状況を考えるケア者になる為に、事例の視聴覚教材）等を視聴して、状況を洞察し思考する。演習も行う。

【授業準備】

ニュースや新聞などで報道される、社会の高齢者の問題に関心を向け日々研鑽してください。毎回ごとにより「事前学習」と「事後学習」の課題を提供し、提出を求めます。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（精神科）」「保健・医療と法律」「日常生活支援技術」

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会 新・介護福祉士養成講座 11「発達と老化の理解」第3版中央法規出版、2018

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 85 %、課題学習レポート提出 10%、出席状況（授業態度含む）5% の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

高齢者を正しく理解することが学習の第一歩です。高齢者を取り巻く社会の状況にも関心を寄せて下さい。

授業科目名・形態	社会保障論 I	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中里操・脇山園恵	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

本講義は、社会福祉概論の学びを基礎に、生存権保障の理念を具体化した国民の生活を保障するセーフティーネットとしての社会保障制度について解説する。社会保障制度は歴史的に形成された制度であり、その意味で時代と社会に規定されて変容するものである。国民の健康で文化的な最低生活を保証するための制度が、なぜ必要なのか、どのような内容が求められるのか制度の目的や機能について、またそれを実現するための具体的な方法と、社会保障制度・政策、行政における問題と課題、展望について解説する。社会福祉関連の職務に於いて必須の基礎知識である。

【到達目標】

1. 社会保障制度の歴史を通して、制度的・政策的対策の必然性に理解する。
2. 社会保障制度・政策の概念（理念、目的、機能・役割、実施方法等）を理解する。
3. 社会保障制度の仕組みと財政構造を理解する。
4. 社会保障の実施方法としての社会保障制度体系を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション（社会保障の必要性・不可欠性）（中里）
 第2回 社会保障とは（社会保障の定義と目的、機能、社会保障と憲法）（中里）
 第3回 社会保障の歴史①（貧困問題対策：救貧法から年金制度へ）（中里）
 第4回 社会保障の歴史②（年金制度から社会保障制度へ）（中里）
 第5回 社会保障の歴史③（日本の社会保障の歩み、憲法と社会福祉・社会保障）（中里）
 第6回 社会保障の歴史④（福祉国家と社会保障；基本的人権と社会保障）（中里）
 第7回 社会保障の歴史⑤（「日本型福祉と社会保障の変容」）（中里）
 第8回 社会保障の構造①（社会保障の仕組み、制度の役割や機能、給付と負担）（中里）
 第9回 社会保障の構造②（社会保障政策と社会保険、年金・医療・介護・労働関連）（脇山）
 第10回 社会保障の構造③（社会保障と社会保険、社会扶助）（脇山）
 第11回 社会保障の財源と費用①（社会保障の費用、費用の規模と内訳）（脇山）
 第12回 社会保障の財源と費用②（社会保障の財源と財源の構成、国と地方の役割）（脇山）
 第13回 社会保障の財源と費用③（社会保障と国民経済、国民の費用負担率）（脇山）
 第14回 社会保障制度の体系①（公的年金制度の概要と、沿革）（脇山）
 第15回 社会保障制度の体系②（近年の年金問題と制度改正）（脇山）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

前回の講義内容を復習復讐する。テキスト、配布資料等の講義予定箇所を読み専門用語概念などについて調べておく。疑問点を整備しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。社会福祉関連のニュースに関心を寄せ、目を通し自分なりの理解と説明ができる状態で主体的準備をする。

【主な関連する科目】 社会福祉概論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障』（第5版）、中央法規

【参考文献】 適宜紹介する。

【成績評価方法】 出席状況・レポート 30%、期試験成績70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

年々増加・膨張する社会保障費用は、社会福祉・年金制度・医療制度の現状維持を難しくしている。社会福祉については福祉改革による新しい福祉システムが造られてきた。次のステージとして、社会保障改革が進められている。こうした社会的背景の中で、社会保障制度のあり方について正しく認識し、判断していくためには、日常的に社会福祉・社会保障の関連領域まで含めて情報の収集と判断が求められる。社会福祉・社会保障を学び、習得した基礎的知識・技術を更に深めて、専門職として社会に還元するための実践学として積極的に学んでもらいたい。

授業科目名・形態	医療と福祉の英語 演習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	佐藤 公彦	開講期	4年後期 単位数 2

【授業の主題と目標】

この授業は福祉学科生と看護学科生を対象とします。本演習は、「Nurses and Stress」（看護とストレス）、New South Wales 看護協会（オーストラリア、2006年）、および、「History of Care」（介護の歴史、W.T Reich 著）を中心に看護と介護の医療英語を学びます。現代のICT化社会の医学、医療は英語が中心です。英語は、国試、進学、就職、また、良い社会人、優れた医療人となるためにもその重要性が増しています。

【到達目標】

- 1) What is stress?を読み、看護におけるストレスを理解し、適切な対処法を知る。
- 2) 「History of Care」の英文読解により介護の哲学を理解する。
- 3) 幾つかのトピックスから医療英語を理解し、医療人としての intelligence を身に付ける。

【授業計画・内容】

- 第1回 看護と福祉医療における医療英語の重要性
- 第2回 「Nurses and Stress」 p.8. ストレスとは何かを読解する。
- 第3回 上記によりストレスの特徴を理解する。
- 第4回 p.11: Occupational health & safety 職業における健康と安全を読解する。
- 第4回 p.17: Coping strategies ストレス克服法を知る。
- 第5回 「History of Care」 p.1: The Myth of Cura (クーラ Cura のお話)を読解する。
クーラ Cura はギリシャ神話の介護 Care の神、です。
- 第6回 上記によりギリシャ神話に見る西欧の介護の原点を理解する。
- 第7回 p.4. ゲーテ Goethe: A romanticist portrayal を読解する。
- 第8回 有名な戯曲「ファウスト」を調べ、ゲーテの考える Care を理解する。
- 第9回 History of the Paralympics (<http://www.pbs.org/wgbh/medal-quest/past-games>)
を読解し、パラリンピックの始まりを知る。
- 第10回 当初と現在のパラリンピックを比較し、その意義を考察する。
- 第11回 カレン裁判と安楽死: The “right to die” and the Karen case. News Today, Oct. 12, 2016. を読解する。
- 第12回 他のデータも調べカレンさんの安楽死について考察する。
- 第13回 The Murder of the Handicapped (ナチスによる障がい者の殺人) Holocaust Encyclopedia を読解する。
- 第14回 他のデータも集めドイツ精神科医師達による障がい者殺人について考察する。
- 第15回 これまでトピックスをまとめ、看護、介護と医療英語との関連を考察する。

【授業実施方法】 講義および輪講形式

【授業準備】 英文読解が中心であるため、特に予習する必要はありません。

【教科書等】 ”History of Care” by Warren T. Reich (Georgetown University, 2007) と Nurses_Stress_Management の pdf file を配布します（無料です）。

【参考文献】

「Tender Loving Care, TLC, 介護医療の心得」、Michiko Miyazaki 訳、南雲堂、Caregiver-Reading the Current Medical World, Susumu Kondo 他、Asahi Press。その他の使用する補助教材のプリントは適宜配布します。

【成績評価方法】 定期試験成績(85%)と受講状況(出席点 15%)で評価します。

【学生へのメッセージ】

日本は西欧文化の多く（殆ど全て）を日本語に翻訳して取り入れています。したがって、英語の知識は通常の communication のみでなく、特に、専門分野において必要とされます。近年、教養 Liberal Arts の重要性が指摘されていますが、本演習により介護医療の哲学の一端を理解し、物事を多面的に判断する Intelligence の重要性について少しでも考察して見ると良いのではないのでしょうか。

授業科目名・形態	健康と運動 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	高橋 俊哉	開講期	1年前期	単位数 2

【授業の主題】

小学校以来、長年親しんできた体育を整理してみましょう。運動をすると健康になると漠然とは理解していますが、なにがどうなっているのでしょうか？この授業では、簡単なトレーニングやスポーツを教材に、運動と健康の関係を探っていきます。

【到達目標】

健康のための運動を生活化できること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 健康と運動の関係を考えてみよう
- 第 2 回 歩くことからはじめよう
- 第 3 回 ウォーキングでカロリー消費
- 第 4 回 なぜマラソンが好きになれないのだろう？
- 第 5 回 心拍トレーニングを理解する
- 第 6 回 LSD
- 第 7 回 走っているだけでいいのだろうか？
- 第 8 回 姿勢を考える
- 第 9 回 体幹を体感
- 第 10 回 レジスタンストレーニング
- 第 11 回 スポーツとトレーニング
- 第 12 回 みんなでスポーツ
- 第 13 回 みんなでスポーツ その2
- 第 14 回 みんなでスポーツ その3
- 第 15 回 スポーティーライフの設計図

【授業実施方法】

実技

【授業準備】

体調管理に留意してください。

「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」は本科目と関連性が強いと思われます。

【主な関連する科目】

【教科書等】

特にありません。

【参考文献】

- 八田秀雄著『エネルギー代謝を活かしたスポーツトレーニング』講談社、2004
- クリストファー・マクドゥーガル著『BORN TO RUN』NHK出版、2010
- ジョンJレイティ著「脳を鍛えるには運動しかない」NHK出版、2009

【成績評価方法】

実技試験40%、レポート課題40%、出席状況・授業態度20%で総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

体育やスポーツが苦手な人にこそ、ぜひ受講してほしい。

授業科目名・形態	健康と運動	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	吉田 英樹	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

近年、健康維持・増進を考える上での「運動」の重要性が認識されています。本講義の前半では、運動による健康維持・増進を考える上で必要となる基礎知識（健康や運動の基本概念、運動の生理学など）に関する内容を取り扱います。その上で、講義の後半では、加齢や生活習慣の変化などが関係する疾患および障害の予防・軽減・改善を意図した健康維持・増進に関する運動の重要性に関する内容を扱う予定です。

【到達目標】

- ① 健康維持・増進のための運動の理論を習得する。
- ② 自身および他者に対して、健康維持・増進のための運動プログラムを立案し、実践できる。

【授業計画・内容】

- 第 1回 オリエンテーション、健康とは何か？運動とは何か？
- 第 2回 運動の生理学①：運動の体内力源としての骨格筋：骨格筋の構造と収縮メカニズム
- 第 3回 運動の生理学②：運動の体内力源としての骨格筋：エネルギー産生機構、筋疲労、筋肉痛
- 第 4回 運動の生理学③：長時間の運動継続（体力？）にとって必要な心臓・肺・血管（前半）
- 第 5回 運動の生理学④：長時間の運動継続（体力？）にとって必要な心臓・肺・血管（後半）
- 第 6回 運動の生理学⑤：しなやかな運動制御にとって必要な神経・感覚器
- 第 7回 予備日（第1～5回までの取り残し部分の講義を行います）＋中間試験（前半の総まとめ）
- 第 8回 生活習慣病について①：糖尿病を中心に
- 第 9回 生活習慣病について②：脂質異常症、高血圧を中心に
- 第10回 有酸素運動の効果①：有酸素運動を用いた糖尿病の予防と治療
- 第11回 有酸素運動の効果②：有酸素運動を用いた脂質異常症、高血圧の予防と治療
- 第12回 筋力トレーニングの効果①：筋力（絶対筋力）・筋持久力強化の基本原則
- 第13回 筋力トレーニングの効果②：筋力（絶対筋力）・筋持久力強化の方法
- 第14回 筋力トレーニングの効果③：インナーマッスルトレーニングと健康増進との関連性
- 第15回 予備日（第8～14回までの取り残し部分の講義を行います）＋期末試験（後半の総まとめ）

【授業実施方法】

スライドプロジェクションを主体とした講義形式で行います。

【授業準備】

毎回の授業で扱う内容は相互に密接に関連していますので、理解不十分な箇所があると、それ以降の授業内容の理解が難しくなってしまいます。このため、授業での配布資料を活用して復習を中心に学習を進めてください。

【主な関連する科目】

「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」は本科目と関連性が強いと思われます。

【教科書等】

特に指定しない（講義に際し、資料の配付を行います）。

【参考文献】

特に指定しませんが、運動生理学やトレーニングの科学などに関する一般啓蒙書が良い参考書となります。

【成績評価方法】

中間試験の結果 40%、期末試験の結果 40%、出席状況 20%で採点し、総合点で 60%以上が合格です。なお、中間および期末試験（それぞれ 100 点満点）で 60 点を下回った場合は、状況に応じたレポート課題を課します。

【学生へのメッセージ】

健康維持・増進にとって必要な運動に関する知識を身につけて、皆さんの今後の活動（公私）に役立てていただければ幸いです。

授業科目名・形態	障がい者（児）の福祉 講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	中里 操・脇山園恵・林 宏二・	開講期	2年後期 単位数 2

【授業の主題】

「障がい」について制度面を含めた理解を深めるとともに、広汎性発達障害などの近年になって社会的な関心が高まっている障がいについても理解を深める。さらに、就労支援、ボランティアによる支援など、障がいのある人々を含め全ての人にとって暮らしやすい社会づくりがどうあるべきかを考え、将来、看護や福祉の専門職としての実践に活用できる知識や理念を修得する場とする。

【到達目標】

- 1) 社会的な関心が高まっている「障がい」についての制度を理解すること。
- 2) 障がいのある人々を含め全ての人にとって暮らしやすい社会づくりについて理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 「障がい」について考えるープロローグー（全員）
- 第2回 障がい者（児）の福祉の歴史を考えるー収容主義からの脱却と地域生活支援ー（林）
- 第3回 障がい者（児）に対する福祉的支援制度と仕組み（林）
- 第4回 障がい者（児）を巡る最近の社会動向について（林）
- 第5回 近年、社会的関心が高まっている障がいについて①ー広汎性発達障がいその1ー（ ）
- 第6回 近年、社会的関心が高まっている障がいについて②ー広汎性発達障がいその2ー（ ）
- 第7回 近年、社会的関心が高まっている障がいについて③ー高次脳機能障がい、難病ー（ ）
- 第8回 バリアフリーとユニバーサルデザインー全ての人にとって暮らしやすい社会づくりー（脇山）
- 第9回 障がい者就労支援のカウンセリングとプログラム（脇山）
- 第10回 障がい者の雇用制度の現状とキャリア形成（脇山）
- 第11回 障がい者の障害の種別によるキャリア支援の方法（脇山）
- 第12回 障がい児療育についてー保健・医療・福祉・教育の連携の視点からー（中里）
- 第13回 障がい者支援ボランティア①一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を考える（中里）
- 第14回 障がい者支援ボランティア②地域に広げる視点、インフォーマルなつながりの重要性（中里）
- 第15回 障がい者（児）の福祉を考えるーエピローグー（全員）

【授業実施方法】 講義(グループ討議等を随時行う予定である)

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に、講義中に指摘する障がいに関わる問題について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「社会保障論Ⅰ」「社会福祉概論Ⅰ」

【教科書等】 特に指定しない。

【参考文献】 随時、講義の中で紹介する。

【成績評価方法】 出席状況・授業態度30%、レポート課題等70%により評価する。

【学生へのメッセージ】

本講義では、各教員の現場での体験などをもとに、障がい者（児）の福祉に関する今日的なテーマを中心に取り上げる予定である。受講する学生には、新聞報道などにも関心を持ち、社会の中で障がい者（児）の状況がどうなっているか、自ら主体的に学びながら受講してほしい。

授業科目名・形態	組織論 講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	小泉 正樹	開講期	1～2年後期 単位数 2

【授業の主題】

人は社会で生きていくために、何かしらの組織に属している。私たちは国家、地方自治体、企業、学校、病院など、多くの組織との関わりなしには生きていけない。本講義では、社会の基本的構成要素としての組織を対象に、その構造と機能をミクロとマクロの視点で学ぶ。本講義で学んだ組織理論を、実社会において既存の組織で活用、あるいは新規組織を立ち上げるときに、有用な知見を提供できるようにする。

【到達目標】

- 1) 組織論の体系を理解すること。
- 2) 組織理論を事例に当てはめて考え、問題点を発見して、改善案を提示できること。

【授業計画・内容】

- 第 1回 インTRODakション 組織論の基礎
- 第 2回 組織と環境
- 第 3回 組織構造と組織デザイン① 組織形態
- 第 4回 組織構造と組織デザイン② 分業
- 第 5回 組織構造と組織デザイン③ 標準化
- 第 6回 組織構造と組織デザイン④ ワークフロー、ヒエラルキー
- 第 7回 組織構造と組織デザイン⑤ 水平関係とその他の追加的処置
- 第 8回 組織行動論① 個人の行動とパーソナリティ
- 第 9回 組織行動論② 集団行動の基礎
- 第 10回 組織行動論③ 意思決定
- 第 11回 組織行動論④ コンフリクトとパワー
- 第 12回 組織行動論⑤ 組織文化
- 第 13回 組織のダイナミクス 組織の長期的適応と発展過程、組織学習と変革
- 第 14回 非営利組織① 公的機関
- 第 15回 非営利組織② ヒューマン・サービスの組織、ボランティア組織

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。

【授業準備】 事前配布プリントに目を通す。

【主な関連する科目】 医療と福祉のマネジメント、看護マネジメント論

【教科書等】 特になし

【参考文献】

- ・ 桑田耕太郎・田尾雅夫：組織論，有斐閣アルマ
- ・ 榊原清則：経営学入門〔上〕，日経文庫
- ・ スティーブン・P・ロビンス：組織行動のマネジメント，ダイヤモンド社
- ・ 沼上幹：組織デザイン，日経文庫

【成績評価方法】

- ・ 定期試験 50%、レポート 50%
- ・ 定期試験を欠席した場合は単位認定を行いません。

【学生へのメッセージ】

組織運営または経営側の視点に立って組織理論を理解することが、実社会で役立ちます。しっかりと目的意識を持って講義に臨みましょう。

授業科目名・形態	人間関係論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	則包和也	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題】

本講義では“人間とは何か”という問いについて、心理学、考古学、歴史、生物学、解剖生理学、哲学等の様々な視点から考えていくこと、および、その思考過程において、コミュニケーションの種類、機能、手段、構造について学び、看護や介護の現場で人間関係がもたらす影響とその重要性を深く理解することを主題とする。

【到達目標】

- 1) 人間を包括的に理解しようとする姿勢を持つ。
- 2) コミュニケーションのメカニズムについて学習し、日常生活や身近な事例に当てはめ、理論的に人間関係を考えることができる。
- 3) 知覚、感情、認知など人間の内面の動きについて学習し、どのように機能しているかを考えながら、人が他者との関係性の中で生活をしていることを理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 人類の出現と進化（1）人間の特殊性
- 第2回 人類の出現と進化（2）人間を理解する様々なアプローチ
- 第3回 人間の表情と感情、認知
- 第4回 人間の生活の変化に伴う概念の発達
- 第5回 自分を知る：コラージュ
- 第6回 コミュニケーションの要素と構成
- 第7回 人間関係における自己理解と他者理解
- 第8回 人間関係における知覚・認知
- 第9回 人間の発達（1）
- 第10回 人間の発達（2）
- 第11回 性格と人格
- 第12回 精神の障害が及ぼす人間関係への影響
- 第13回 ストレスと対処
- 第14回 コミュニケーション演習
- 第15回 人間関係を考えることについて

【授業実施方法】

講義と演習によって行う。また、グループディスカッションを取り入れながら意見を発表する。

【授業準備】

講義の内容を復習し、興味・関心のあるテーマについて自己学習を行うこと。

【主な関連する科目】

「看護コミュニケーション」、「精神看護方法論Ⅰ・Ⅱ」

【教科書等】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

【成績評価方法】

講義の3分の2以上を出席している学生を評価する。評価の内容は、最終課題レポート40%、出席状況30%、毎回の講義での課題レポート20%、授業態度10%によって評価する。

【学生へのメッセージ】

講義中に、少人数でのグループワークを実施することを踏まえて参加すること。

授業科目名・形態	民法		必修・選択の別	選択	
担当者氏名	道端忠孝	開講期	2年	単位数	2単位

【授業の主題】

民法典は、1044ヶ条からなる、とても大きな法典です。法学部では、民法総則、物権、債権総論、債権各論、親族相続（家族法）という5科目の授業で行ないます。これを本講では、すべて行ないます。

したがって、本講では、民法の基本的考え方を理解してもらうことを基本とします。日常生活において、買い物や物の貸し借りはよく行いますが、そういう取引上の諸問題や、お金を借りる場合には、保証人をつけたり、土地や建物を担保にしたりしますので、そういう保証や担保のこと、さらには未成年者や成年被後見人、被保佐人等の保護のほか、結婚や離婚、遺産相続などについても講義します。

【到達目標】

- 1)、民法とはどういう法律か、民法の基本的考え方とその仕組みを理解する。
- 2)、日常取引等における私人間の利害の調整の原理を理解する。
- 3)、特に、社会福祉の世界において役立つ、弱者等の財産保護、相続などの理解を深める。

【授業計画・内容】

- 第1回 ガイダンス、民法総則①：民法という法律について・民法の基本原則
- 第2回 民法総則②：制限行為能力者・法律行為・意思表示・意思の不存在、瑕疵ある意思表示
- 第3回 民法総則③：代理、無権代理・条件・期限・時効
- 第4回 物権①：物権とは・物権変動・占有権・即時取得
- 第5回 物権②：用益物権・担保物権
- 第6回 物権③：質権・抵当権
- 第7回 債権総論①：債権とは・債権の目的・種類・債権の効力
- 第8回 債権総論②：連帯債務・保証・債権譲渡・相殺
- 第9回 債権各論①：契約の成立・危険負担・契約の解除
- 第10回 債権各論②：売買・担保責任・典型契約
- 第11回 債権各論③：不法行為・特殊の不法行為
- 第12回 親族①：親族・婚姻・離婚
- 第13回 親族②：親子・認知・養子・特別養子・後見
- 第14回 相続①：相続・遺産分割
- 第15回 相続②：遺言・遺留分
- 第16回 試験

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行なう。

【授業準備】

テキストは最低、一読していただき、ノート整理するように心がけてください。

【主な関連する科目】

法学（日本国憲法）、権利擁護と成年後見。

【教科書等】

田中嗣久＝田中義雄『民法がわかった』法学書院

【参考文献】

講義時に紹介します。

【成績評価方法】

小テスト（40%）、定期試験（60%）により評価。

【学生へのメッセージ】

民法は、私たちの日常生活においてとても役立ちます。基本的考え方をしっかり押さえておきましょう。

授業科目名・形態	臨床心理学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	松田侑子	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

心理学の応用分野の一つとして、臨床心理学は心の悩みや精神疾患を抱える人々を理解し、支援していくことを目的としています。また、悩みや問題を抱えていない健康な人々に対しても、その状態を維持および増進することに寄与しています。「こころ」という目には見えないものを対象とするため、そのための理論や方法は非常に多岐にわたります。そこで本講義では、臨床心理学の中でも代表的な理論や方法を取り上げて概説します。

【到達目標】

臨床心理学の基本的な理論・方法を理解し、心に悩みを抱えた人たちに対してどのような援助が行われるのかについて知識や考えを深めること。また、いくつかの技法についてはロールプレイやワークなどの体験的学習を通じて学ぶことで、将来的に活かせるスキルを習得することを目指します。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション・心理学とは何か
- 第2回 精神分析
- 第3回 来談者中心療法
- 第4回 カウンセラーの三条件
- 第5回 行動療法
- 第6回 認知行動療法
- 第7回 認知行動療法
- 第8回 グロリアと三人のセラピスト
- 第9回 試験・解説
- 第10回 体験的学習：コラージュ療法
- 第11回 ブリーフセラピー
- 第12回 ブリーフセラピー
- 第13回 体験的学習：ストレスマネジメント
- 第14回 体験的学習：ストレスマネジメント
- 第15回 試験・解説

※進行に応じて多少変更することもあります。

【授業実施方法】

基本は講義形式で行う。ただし、体験的学習等ではグループワークを行うこともある。

【授業準備】

特になし。

【主な関連する科目】

心理学関連の授業を受講しておく、更に理解が深まると思います。

【教科書等】

配布資料を用意します。

【参考文献】

下山晴彦編 (2009) . よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

出席：30%、受講態度：15%、試験：55%で評価します。

【学生へのメッセージ】

自主的に学ぶ姿勢で臨んでもらいたいと思います。

授業科目名・形態	行政法	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名		開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

【到達目標】

今年度休講

【授業計画・内容】

【授業実施方法】

【授業準備】

【主な関連する科目】

【教科書等】

【参考文献】

【成績評価方法】

【学生へのメッセージ】